

小笠原亜熱帯農業センター（東京都）

亜熱帯性気候を生かした農業の発展を目指して、熱帯・亜熱帯園芸作物の導入・育成と生産技術の開発・改善及び農業者への技術指導に努めている。また、観光客に小笠原の自然を紹介するために、展示園を公開している。



小笠原海洋センター（小笠原村・日本ウミガメ協議会）

小笠原諸島の海洋生物及びアオウミガメの飼育・生態研究・展示を行っている。

研究団体

小笠原ホエールウォッチング協会

小笠原でのホエールウォッチングに関する情報提供を行うとともに、鯨類の研究や啓蒙・教育活動を行っている。

東京都立大学小笠原研究委員会

東京都立大学関係者が都立大学小笠原研究施設において、小笠原の発展に基礎的分野で貢献することを目的に、小笠原諸島の自然及び社会の研究を行っている。

小笠原野生生物研究会（NPO法人）

小笠原の野生生物及び自然環境の保全に寄与することを目的に、小笠原の野生生物の調査研究を行うとともに、野生生物の保護保全に関するボランティア活動を行っている。

小笠原自然文化研究所（NPO法人）

将来、小笠原に関する総合博物館を村内に設立することを目指し、小笠原諸島の独特な自然と文化の調査研究を行い、自然文化に関する情報の収集発信を行っている。

（写真協力：小笠原総合事務所・東京都小笠原支庁・小笠原村）

3 . 島内の学術研究施設

展示施設

小笠原ビジターセンター（東京都）

小笠原国立公園を紹介するセンター施設。模型やパネル、マルチスライドなどで小笠原諸島の自然や歴史文化を総合的に紹介している。



母島ローズ記念館（小笠原村）

母島で産出するローズ石と戦前の生活用具、伝統工芸、写真など母島の歴史文化遺産を展示している郷土資料館。

研究施設

小笠原水産センター（東京都）

小笠原諸島海域における水産業振興の拠点として各種漁業に関する漁場開発、漁具漁法の普及改良、水産資源の保護管理および増養殖技術の開発等に重点を置いた調査研究、指導を行うとともに操業の安全化を図るため、漁業用無線局の運用にあたっている。

また、観光客に小笠原近海の水生生物を紹介するため、ミニ水族館として公開している。



母島納涼祭【母島】

脇浜なぎさ公園で行なわれる母島壮年会主催の盆踊りを中心としたイベント。夏休み中のため、観光客の参加も多い。

10 月

御獄神社例大祭【母島】

農業の神様を奉ってある神社で、農業者は毎年の豊作を祈願する。集落から少し離れた山の中腹で行なわれるアットホームなお祭り。

小笠原フィッシングトーナメント【父島】

観光客を対象にしたイベント。島民の参加も多く、観光客と釣りの腕を競い合う。表彰式では南洋踊りのアトラクションなどがあり、島の文化とふれあうことができる。

11 月

大神山神社例大祭【父島】

大村地区にある神社の祭り。奉納相撲大会やカラオケ大会のほか、御輿や山車が笛や太鼓に合わせ島内を賑やかにまわり、秋の風物詩となっている。

小笠原訪島ツアー【父島・母島】

旧島民らに訪島の機会を提供するために、(財)小笠原協会が主催する訪島ツアー。滞在中は島民との交流会なども開催される。



月ヶ岡神社例大祭【母島】

御輿や山車が島内を賑やかに練り歩き、夜は神社境内の夜店に囲まれたステージが盛況。

12 月

カウントダウン・パーティー【父島】

大晦日のイベント。大村海岸のステージでカウントダウンライブや小笠原太鼓が披露される中、カウントダウンを行い、花火と船の汽笛で新年を迎える。

2. 交流イベント

1 月

海開き（1日）【父島・母島】

日本一早い海開き。初泳ぎをした観光客に対して「初泳ぎ証明書」を発行している。



3 月

母島フェスティバル【母島】

母島の産業団体が一同に会し、島の農産物・海産物や島料理の試食、即売を行っている。小笠原太鼓など郷土芸能の披露もある。

6 月

パッションフルーツ祭【父島】

パッションフルーツをテーマとした祭り。パッションフルーツや島内産業団体による島料理の試食・即売が行われる。南洋踊りやフラダンスのアトラクションもある。

母島返還祭【母島】

小笠原諸島の返還を祝う祭り。島民の演芸大会のほか、花火や小笠原太鼓披露が祭りを盛り上げる。

7 月

貞頼神社例大祭【父島】

扇浦地区にある小笠原貞頼神社の祭り。小笠原で年に一度のシーカヤックのレースが開催され、レース後は「ウミガメの煮込み」が振る舞われる。

8 月

サマーフェスティバル【父島】

8月いっぱい島内各地で開催されるイベント。盆踊りや花火大会をはじめ、ビーチバレー大会・フラダンス・野外映画会・ウミガメの放流など、観光客と一緒に小笠原の夏を楽しむ。

海中公園遊覧

珊瑚礁等の海中景観に優れ、魚影の濃い兄島瀬戸をはじめとする海中公園の遊覧ツアー。船上からでも多くの魚を観察することができる。

フィッシング

小笠原近海にはカンパチ・マグロ等大型の魚をはじめ、多種多彩な魚が生息しており、本土沖では味わえないダイナミックな釣りを楽しむことができる。

シーカヤック

自分でシーカヤックを漕ぎ、ガイドの案内により普段は船で近づけない入江や洞窟の海を楽しむことができる。海の状況が良ければ、南島や兄島にも渡れる。

ジャングルフィールドガイド

世界的にも貴重な固有動植物が多い小笠原の森を、ガイドの案内で散策し、環境学習をしながら自然と親しむ。

フィールドナイトツアー

夜になると光るキノコ「グリーンペペ」や天然記念物のオガサワラオオコウモリを観察できるスポットをガイドの案内で散策したり、満天の星空を眺めたり、夜の小笠原を楽しむ。

バードウォッチング

母島だけに生息する特別天然記念物のハハジマメグロをはじめ、オガサワラヒヨドリやハシナガウグイスなど、絶滅の恐れがある貴重な野鳥を観察することができる。



戦跡巡り

小笠原諸島は太平洋戦争末期に本土防衛の最後の砦として重要な戦略拠点であったため、陸上、海底を問わず戦争の傷跡ともいえる多くの残骸が戦跡として残っており、これらを巡り平和への思いを新たにする。

現在の主な観光メニュー・交流イベント等の状況

1. 観光メニュー

ホエールウォッチング

周辺海域には、冬から春はザトウクジラ、秋はマッコウクジラを中心に鯨類が回遊しており、洋上あるいは陸上から観察できる。ザトウクジラの豪快なブリーチングを見られることもある。



ドルフィンスイム・ウォッチング

周辺海域に生息するハンドウイルカやハシナガイルカは、船上から眺めるだけでなく、一緒に泳ぐこともできる。またイルカを探しながら島や海中公園を巡り、スノーケリングをするコースもある。

スキューバダイビング

父島・母島・ケータ(髻島)列島周辺には世界的にも有数のダイビングスポットが多く、大型の回遊魚の勇壮な姿や多種多様な熱帯魚が珊瑚礁の間を泳ぐところを観察することができる。

南島上陸

南島の「沈水カルスト地形」は珊瑚礁の隆起、沈降によりできたもので、世界的にも珍しい。現在、観光と自然保護の両立を図るため、入島制限が実施され、ガイドの同行が義務付けられている。



小笠原諸島における観光・交流施策について

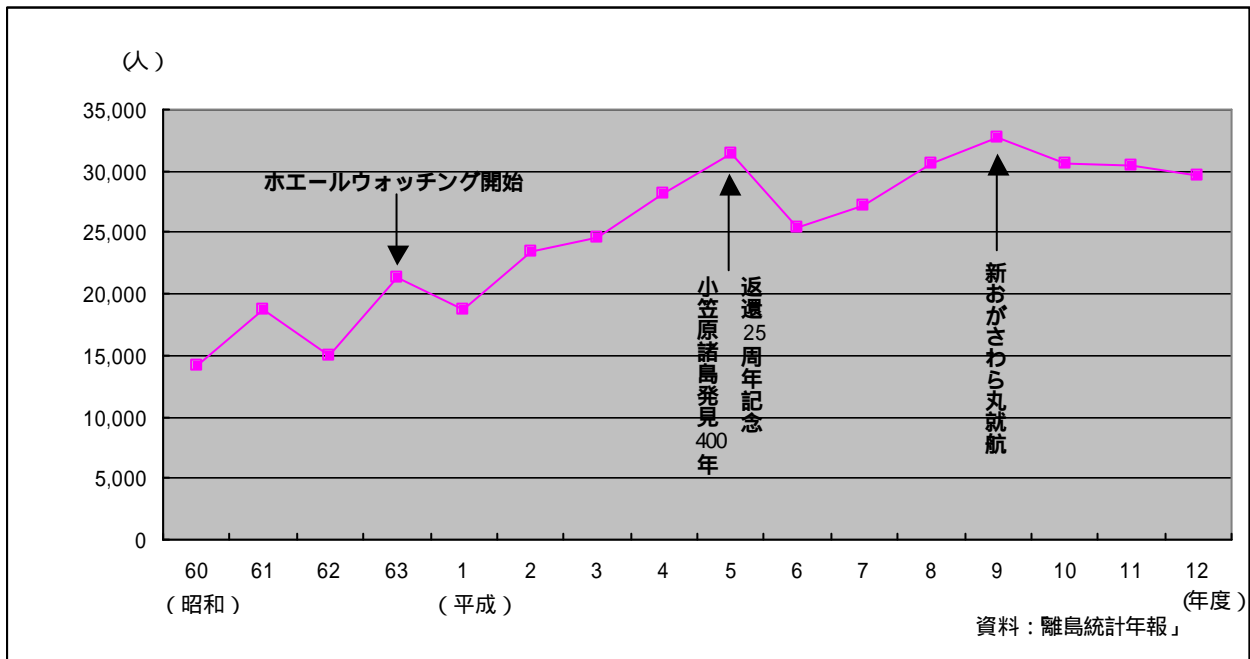
観光の現状について

小笠原諸島の観光は全国的にも認知されてきており、観光に関わり合いの強いサービス業や卸・小売業等のその他業種人口は一貫して増加基調にある。

観光客数は、着実に増加してきたが、平成9年度以降30,000人/年程度で横ばい基調にある。(図表1)

昭和55年度の観光客数と比較すると、8割以上増加している。(図表2)

図表1 観光客の推移(昭和60年度～平成12年度)



図表2 小笠原諸島の観光関連指標の比較

		S50	S55	S60	H2	H7	H12
小笠原諸島	観光客数(千人)	13.0	16.0	14.2	23.4	27.2	29.7
	(指数)	-	(100)	(88.8)	(146.3)	(170.0)	(185.7)
	宿泊客数(千人日)	-	-	-	70.9	75.3	74.7
	(指数)	-	-	-	(100)	(106.2)	(105.4)
	宿泊収容能力(人)	-	-	942	906	1,089	1,120
	(指数)	-	-	(100)	(96.2)	(115.6)	(118.9)
離島全体	観光客数(万人)	1,350	1,303	1,468	1,995	1,866	1,465
	(指数)	-	(100)	(112.7)	(153.1)	(143.2)	(112.4)
	宿泊客数(万人日)	-	-	913.9	966.4	826.6	875.1
	(指数)	-	-	-	(100)	(85.5)	(90.6)
	宿泊収容能力(人)	-	-	142,560	134,390	126,077	116,390
	(指数)	-	-	(100)	(94.3)	(88.4)	(81.6)

資料：離島統計年報、小笠原の宿泊客数については管内概要(東京都)